

趣味週間記念切手『序の舞』

上原 昇（2組）

4月18日に切手趣味週間を記念して、110円切手シートが発売されました。

趣味週間とは郵政記念日（4月20日）を含む1週間で、切手の持つ美しさと芸術性を広く知ってもらうため1947年に制定されました。

筆者（上原）は子供の頃から、何となく記念切手（特殊切手）に魅せられて、これはという切手を集めています。特に収集のテーマがあるわけではなく、その時々話題やイベントについて切手を通じて記録しておこうという思いがあります。

今年の趣味週間での切手は、日本画家二人の近代美人画を図案化しています。

上村松園（^{うえむらしやうえん}1875～1949）の『序の舞』（1936年作、重要文化財）と土田麦僊（^{つちだばくせん}1887～1936）の『舞妓林泉』（1924年作）です。

特に『序の舞』は有名で、誰でも一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。

この絵を切手にするのは、今回が初めてではないと思い、アルバムを繰ってみました。

まず最初に見つけたのは、1965（昭和40）年の切手趣味週間で発売されたものです。

金額は10円でサイズ也大振りで見栄えがします。この切手は人気で、保存状態が良ければ何倍かの値段でネット流通しているようです。

次は1999（平成11）年、松園没後50年に発売された平成文化人シリーズ切手で、金額は80円です。

そして今回は松園生誕150年を記念して、金額は110円になっています。1965年から



60年経って、切手の価格も100円上がっていることが分かりました。現在、大阪中之島美術館で上村松園生誕150年記念展が開催中で、松園人気が伺えます。

左から1965年切手、1999年切手、2025年切手

（2025年4月19日記）

以上